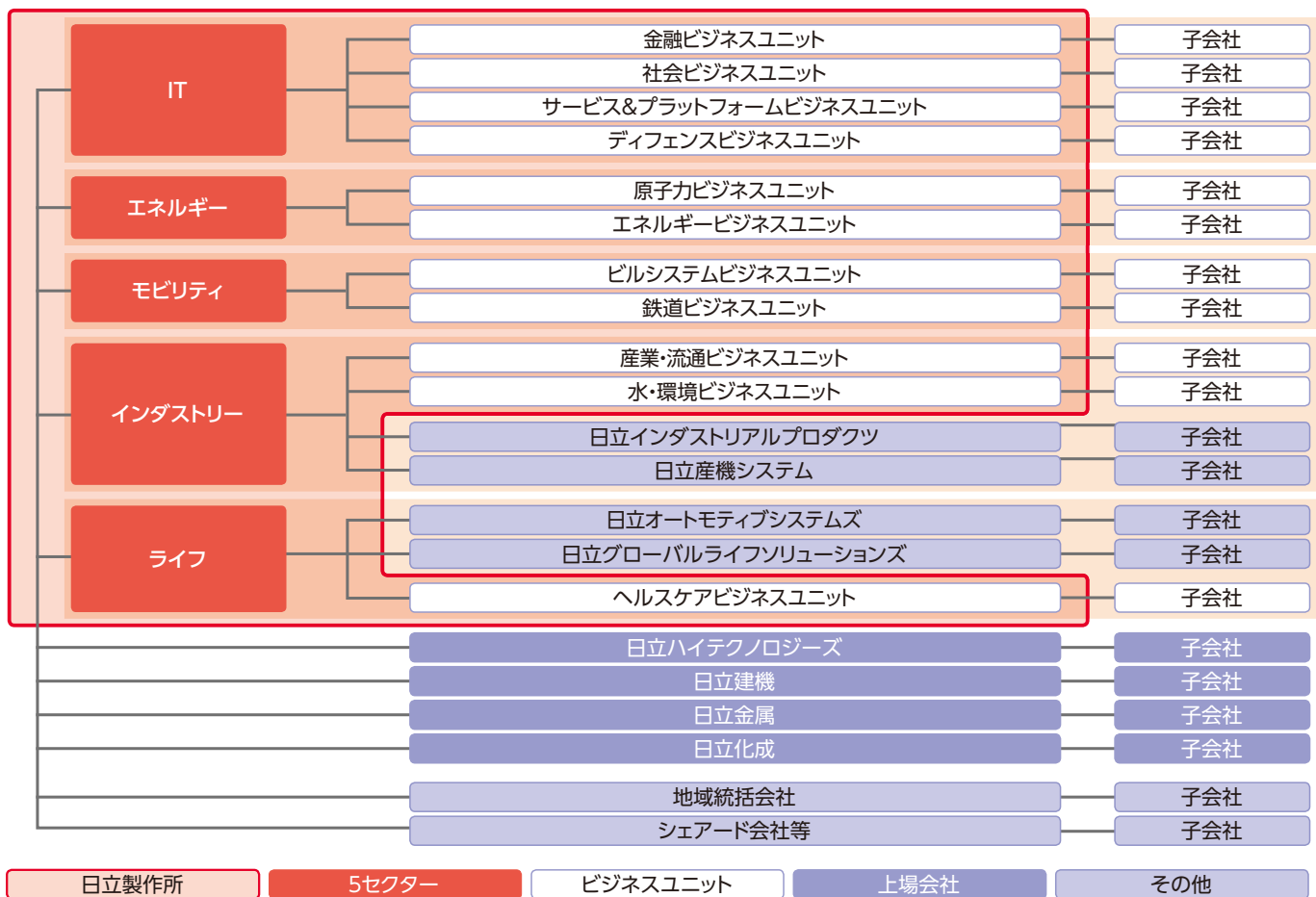


日立グループの事業運営体制



日立の価値創造におけるキーワード

Society 5.0

日本政府が掲げる新たな社会像であり、その実現に向けた取り組みのこと。AIやIoT、ロボットなどの革新的な科学技術を用いて、社会のさまざまなデータを活用することで、経済の発展と社会課題の解決を両立し、人間中心の豊かな社会をめざす。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く5番目の新たな社会として位置付けられている。

社会イノベーション事業

社会インフラをはじめとする幅広い領域において、最新のデジタル技術などを活用したお客さまとの協創を加速し、日立グループの多様な事業基盤や日立が長年培ってきたOT(Operational Technology)、IT、プロダクト、システムを組み合わせたトータルソリューション、「Lumada」をはじめとしたデジタルソリューション、そしてワールドワイドな事業者とのパートナーシップを活用したオープンイノベーションにより、社会やお客さまが直面しているさまざまな課題を解決する事業。

日立の強み—OT×IT×プロダクト

100年超の実績を誇る制御・運用技術(OT:Operational Technology)、50年超の実績を誇る情報技術(IT:Information Technology)、そしてプロダクトの3つを併せ持ち、お客さまや社会の課題を解決するデジタル技術を活用したソリューションを提供すること。

Lumada(ルマダ)事業

お客さまのデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための、日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション、サービス、テクノロジーの総称。Lumadaは、「illuminate(照らす・輝かせる)」+「data(データ)」に由来。Lumada事業における顧客協創のプロセスや、これまで培ってきたデジタルソリューションをモデル化したものをユースケースと呼ぶ。また「Lumada Solution Hub」はLumadaソリューションやアプリケーション開発環境を導入しやすい形にパッケージ化し、クラウド基盤上で提供するサービス。

NEXPERIENCE(ネクスペリエンス)

日立製作所が提唱する顧客協創方法論。お客さまとのワークショップを通じて、さまざまな知見を多角的に見える化しながら、新規ビジネスを創り上げていく。新規ビジネス創出のための「手法」、手法を支援する「ITツール」、ワークショップでの議論を支援する「顧客協創空間」で構成されている。